

## 夜間における対歩行者被害軽減ブレーキの評価について

歩行者被害軽減ブレーキの評価については、2016年度に実車を用いた調査研究を実施、今年度に試験・評価方法を策定し、2018年度から評価を開始することとしている。

前回検討会において今後の課題としていた項目について、その後 TF や WG において検討が進んだものについて、今次検討会においてご審議いただきたい。

### 1. ご審議いただきたい事項

#### ●夜間における被害軽減ブレーキと高機能前照灯の重複部分の取扱いについて

- ・夜間における被害軽減ブレーキと高機能前照灯の事故削減効果の重複部分については、夜間における被害軽減ブレーキ試験に含めて評価を行うものとして整理する。
- ・そのため、高機能前照灯（ADB/AHB）の評価点（装備加点）については、被害軽減ブレーキの効果と重複する部分を予めカットした点を満点とする。  
（理由）
- ・街灯なし条件の被害軽減ブレーキ試験時に高機能前照灯の設定をオートにすることにより、当該試験時に被害軽減ブレーキの効果に加え高機能前照灯の効果についても評価が可能。
- ・また、高機能前照灯の効果のうち重複部分については、実試験を行わない装備加点方式ではなく、実試験により評価が行える。
- ・評価結果をとりまとめる際に重複を考慮した複雑な計算が不要であり、より分かりやすい評価となる。

#### ●照度条件の設定について

- ・水平面照度と鉛直面照度の2つの条件を確認することとする。
- ・照明条件を計測する地点は、試験自動車と試験用ターゲットの設定衝突ポイント（座標原点）とその40m手前、並びに試験用ターゲットの歩行開始地点（設定衝突ポイントの6m手前）の3箇所とする。  
（理由）
- ・照明設置基準の指標やターゲットの見え方を統一させ、再現性のある公正・公平な試験条件とするため。

### 2. 今年度中の検討課題【報告事項】

#### ①ターゲット背景の影響対策

試験設備からの前照灯等の反射が夜間対歩行者被害軽減ブレーキ試験の結果に影響を及ぼす可能性があることから、調査研究において対策を検討しており、暗幕処理により対策する方向で検討中

#### ②試験効率化の検討

2019年度から開始する街灯なし条件を加えた試験において、街灯あり・なしの試験条件をフルで実施することは試験工数が膨大となることから困難である。そのため、昼間の環境での試験で採用した‘代表速度による効率化方式’（あらゆる条件・速度域で試験を行うのではなく、ある代表速度で試験を行い、その他の速度域は代表速度での試験結果に係数を乗じて評価を行う方式）を検討し、その妥当性を検証するための調査研究を実施する。

#### ③高機能前照灯（ADB/AHB）の装備加点の付与方法

高機能前照灯（ADB/AHB）の装備加点（被害軽減ブレーキの効果と重複する部分を予めカットした部分）について、どのように得点を付与するか検討を行う（例：作動速度域に応じた評価点（ADB/AHBが低い速度域から作動する装置がより高い得点となる評価方法））。